

尋常性狼瘡を伴える腎結核症の1例

京都大学医学部泌尿器科学教室

加 藤 篤 二

RENAL TUBERCULOSIS ASSOCIATED WITH LUPUS VULGARIS:
REPORT OF A CASE

Tokuji Kato

From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University

A 30-year-old woman had typical lupus vulgaris and renal tuberculosis. Right nephrectomy was performed. Etiology of simultaneous occurrence of two diseases was discussed.

腎結核症に狼瘡を伴った珍しい1例を報告する。

症 例

患 者：三〇信〇，30才，女子。

初 診：1934年10月22日。

主 訴：頻尿と慢性皮疹。

既往症：10年前肋膜炎に罹患。

現 症：

1) 10年前より左膝蓋部に掻痒性皮疹をきたし難治性であった。6年前より左耳翼後部にも同様な皮疹をきたし、両者とも徐々に拡大の傾向を示した。

2) 昨年(1933年)春ごろより頻尿を訴え、同時に膿尿と排尿痛を覚えこれらが増強するようである。

所 見：体格中程度，栄養良好，両腎とも触知せず膀胱部に圧痛がある。

皮膚所見：左顔面には Fig. 1 のごとく広範な表面よりやや隆起した鱗屑，痂皮を示す角化性発疹がみられ，中心が癒痕治癒を示し周辺に拡大する傾向がある。触れて硬く，皮疹周辺部には定型的な，狼瘡結節が認められる。皮疹は上口唇より上顎内面にもおよび，後方は左耳翼をこえている。左頸部リンパ節2～3コが腫脹している。左膝蓋部にも Fig. 2 のごとく内側外側におよぶ広範な蛇行性皮疹がみられ，中央が癒痕化している。

尿はやや混濁，検鏡上赤白血球多数，結核菌(+)。

膀胱鏡所見：膀胱粘膜では後三角部に多数の小結節がみられ，発赤強くところどころに小潰瘍が認められた。青排出，右は30分まで排出なく，左は4分50秒初

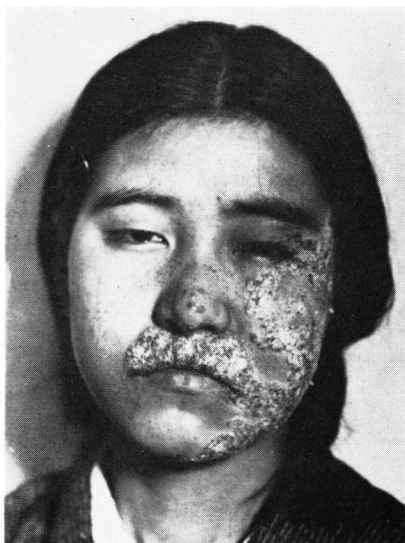


Fig. 2



Fig. 1

発、7分で濃青。PSP 1時間55%，2時間13%，3時間5%合計73%。赤沈1時間11，2時間22。

皮疹の組織は定型的結核構造を示し、すなわち中心部は類上皮細胞の浸潤がみられラングハンス型巨細胞が散在し表面上皮は増殖し角化の傾向が強い。以上により尋常性狼瘡と診断された。

逆行性腎盂撮影では左側は正常、右は下垂し腎盂が拡大して崩壊像がみられる。

以上により右腎結核として11月22日摘出した。摘除腎重量 235 g，腎の長さ 12 cm，幅 6.8 cm，厚さ 5.8 cm，割面をみるに皮髄質ともに健常部なくすべて崩壊し空洞化して中に濃厚な白濁液を充満している。腎変化よりして末期結核腎であることは確実である。

胸部レ線像では両側肺野の軽度肺浸潤と右肋膜癒着（横隔膜との）を示した。

皮疹は当時のこととて特殊療法はなく太陽燈照射のみを続行して12月末に退院。以後1年間通院した記録がある。

総括と考按

30才の女子で既往に肋膜炎の罹患があり同時に尋常性狼瘡を伴った患者で頻尿を主訴として来院し、諸種検査の結果右腎結核の診断をうけて摘出したところ末期結核病変を呈した1例で

あり、肺野にはレ線上軽度の肺浸潤と肋膜炎癒着像を認めた。

本例で特異なことは肺病変が軽少であるのに反し、皮膚結核は疾患が高度でかつ進行性であること、腎病変もまた末期的変化を呈していることであり、原発巣は肺で皮膚、腎は二次的発症であると考えられる。文献上皮結核における原発巣はほとんど肺野で他の結核ははなはだ少なく本邦では伊藤のあげた158例中泌尿器結核は6例の僅少例であるが、尋常性狼瘡は1例もなく、皮膚腺病2，陰茎結核疹2，結節性静脈炎1，等である。しかして皮膚病変と腎変化はいずれも高度変化で Hoffmann のいう免疫的防御 Esophylaxie の関係はこの三者間では特殊関連はないものごとくである。

ともあれ珍しい1例として記載した次第である。

文 献

伊藤：皮膚結核，1949，金原出版。

宇田：皮膚性病學，63：337，1954。

（1970年1月5日受付）